



近畿支部会報2015年12月号

いつの間にか今年も残り少なくなりました。皆様のご協力のおかげで、今年も無事にサーバスの活動が行なえ、年が越せることを感謝しています。有難うございました。皆様には、どんな1年でしたか。良き年であったことを願っています。

私は今年もサーバス旅行を楽しませて頂きました。サーバスで訪れる方が家庭でベジタブルガーデンを作り、採りたての野菜で美味しい食事を作って下さいました。私も小さいながら家の庭で畑をしています。安全な食材を使いたいという事と、土との生活は心身ともに爽やかになるからです。時々わからない事を畑の大先輩、奈良の会員Tさんにお聞きします。ある時、メールに「僕の畑の近くにまた素敵な店が出来ました。来ませんか。今なら熟柿が一杯ありますよ。手でもぎ取って食べましょう。それから枯草で焼き芋も出来ます。採りたての野菜のお土産付き。へもへ！」とありました。早速、同じく奈良で大きい畑をされている会員のKさんと一緒にTさんをお尋ねしました。美味しい手打ちうどんの



Kさんの花畑

お店でした。Tさんの畑は生駒の山に囲まれた風光明媚な所にあり、秋の自然を一杯楽しみませて頂きました。

いろいろな国のサーバスの方が、トラベルだけでなく日常的にもサーバスの仲間と楽しみ、生活を豊かにされています。私たちがそのように楽しめたら良いなと思います。

来年もサーバスをよろしくお願いします。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1、総会報告	京都市	H.T
2、トラベル報告	もう1度訪れたいブルガリア	京都市 H.T
3、トラベラー受入れ報告	アウトドア派のトラベラー	交野市 S.S
		ようこそ秋の日本へ	和泉市 A.K
		ロンドンからのお客様	奈良市 K.J
4、会員交流「北から南から」	土と戯れる日々	生駒市 T.S
5、お知らせとお願い		支部長

1 総会報告

京都市 H.T

日時：2015年12月20日（日） 場所：大阪北新地 MORISHITA

参加者：本部役員3名 支部役員3名 一般会員2名 家族3名 見学者3名 計14名

昨年まで総会を行っていた弥生会館が閉館になったので、クリスマスイルミネーションが通り一杯に飾られている御堂筋のMORISHITAに会場を移して総会を行いました。開始時間には全員集合、先に総会をして、サーバスに興味を持って下さっている方が3人も来て下さったので、サーバスを紹介する内容での自己紹介となりました。料理もすごく美味しい！ 飲み放題付きで和気あいあいとしたひと時でした。昨年までの音楽演奏はありませんが、こじんまりした空間だったので、皆がよく交流出来て、こ

れからの総会はここにしようとして全員満足でした。総会後は淀屋橋のクリスマスイルミネーションを楽しんで、皆の心にも温かい想いを満たせました。

総会では以下の事を討議してすべて承認されました。

1、2015年度事業報告

① 例会

実施日	場所	内容	参加者
2月7日	ホテル馬酔木 奈良駅前店	・国内会議への提案 ・モンゴル障害児教育研修団受入れについて ・メーリングリストの名称変更について	12名
4月6日	和歌山	お楽しみ例会	10名
5月9日	近江屋ロープ株式会 社	モンゴル歓迎例会	39名
9月27日	会員 S.Yさん宅	・国内会議の報告 ・講演「サーバス各国における平和活動」Ms.Dさん ・モンゴル障害児教育研修団受入れについて報告	11名
12月20日	梅田 MORISHITA	総会	14名

会報は例会後に作りました。

② 日本サーバス主催、実施担当近畿支部で、モンゴル障害児教育研修団11名を9日間受入れ、研修して頂きました。

③ 被災された方の保養の取り組み

チェルノブイリや福島原子力発電所の事故で被曝された方が、被災地から最低2週間離れることで発癌率が低下するという事で、保養・疎開の取り組みが進められています。日本サーバス近畿支部でもその例にならって、今夏も実施しましたが、応募者はありませんでした。

2、役員

役員は任期は2年なので、来年度も今の役員で続きます。

3、2016年度事業計画

①次のように例会等を行います。

2月	春の例会
3月12, 13日	日本サーバス国内会議（於北海道）
5又は6月	春の例会
秋	秋の例会
12月	総会
未定	お楽しみ例会

会報は原則として、例会後に作ります。

② 東日本震災で被災された方の保養の取り組みを行います。

③ モンゴル障害児教育支援の一環として行うモンゴルでの「日本・モンゴル障害児親子交流キャンプ」に協力します。

4、2015年度近畿支部会計中間報告、2015年度近畿支部モンゴル特別会計中間報告、及び、2016年度近畿支部仮予算

2、トラベル報告

もう1度訪れたいブルガリア

京都市 H.T

5月28日から6月24日まで、夫とブルガリア、ギリシャを旅しました。旅のきっかけは、昨年ブルガリアサーバスのTさんが来られて、ブルガリアにもサーバスがあるのを知った事です。Tさんに行くと言うと旅行の計画を立ててくれ、サーバスのメンバーがいない所のホテルも全て予約して下さいました。又、Tさんは3か所に別荘を持っていられて、そのどこにもTさんが仕事を工夫して夫のJさんと一緒に行って下さいました。感謝の他ありません。



バルカン半島で強大な勢力を誇っていたブルガリアは、オスマン朝征服、ソ連の傘下入り、EUに加盟等の曲折を経ているので、異文化が混在した独特の雰囲気がありました。現在EUでは最貧国とされていますが、生活も首都のソフィアを離れると、昔の様式を残しているのどかな安らぎがあり、これぞ人間の生活と思えました。以前は世界遺産は見逃すまいと思っていましたが、今回の旅行でその気持ちが薄れてきました。世界遺産よりのどかさが素敵で、私たちは、又、ブルガリアに行きたいと思っています。

ソフィア 5月29日～31日 Mr. & Ms. GS & Mr. & Ms. TB



ブルガリアの首都、ソフィアにはブルガリアの人口が集中しており、現代的な大きな町です。近代的なビルの中に、古代都市の遺跡、イスラム寺院、ギリシャ正教の教会、共産党からの解放記念碑、はたまた朝市のようなローカルな所もあり、実に国の歴史と近代化の歩みを実感出来る所でした。

ソフィアから70Km程ギリシャ寄りの山奥に、10世紀に建てられたリラの僧院という世界遺産があります。見事な教会、フレスコ画、本来はひっそりたたずむというわけですが、すごい観光客でした。

ソフィアでは主に私たちの親しい友人、Gさん家族にお世話になりました。奥様はとても料理がお上手で毎日フルコース、ご主人はお酒が好きで毎日いろんな珍しいお酒を飲んで、主人はご機嫌でした。

コプリフシティツァ 6月1, 2日 TBさんの別荘

コプリフシティツァには、バロック様式と民族復興様式が混じり合った富豪の屋敷が残されていて、昔の見事な雰囲気があり、今も馬車が移動手段に使われていて、タイムスリップしたような素敵な村でした。Tさんの別荘にも昔の農機具等が置かれていて、誠に雰囲気ばっちりです。ここでは毎年夏にヨーロッパの民族ダンスや歌の大会が開かれているので、私たちはもう一度来ようという気持ちになりました。滞在中はハウスミュージアムや村のウォーキングを楽しみました。

ヒサル 6月3～5日 TBさんの別荘

ヒサルは良い自然水が湧き出る所で、その水はペットボトルに詰められ、外国にも輸出されています。そして、温泉が有名で、ローマ時代から栄えていました。今は老人がリハビリを兼ねて住む施設が整備されています。Tさんも今は仕事上ソフィアに住んでいるが、ゆくゆくはここに住みたいと言っていました。別荘には見事な野菜畑があって近くの人に管理を頼んでいられ、野菜、果物がたわわでした。鶏も地面を這っており、昔の良き生活が残っています。朝の散歩の時には山羊の散歩に出会うし、近くの山からはパノラマの景色が見られ、素敵な所でした。



プロヴティブ 6月6日 ホテル

プロヴティブは、ブルガリア第2の都市ですが、人口は38万と少なく、いかにソフィアに人口が集まっているかがわかります。ここは紀元前19世紀にはすでに集落があり、ローマの円形劇場跡等、古い建物も良く保存されていて、新旧入り混じる格調高い美しい街並みでした。街の雰囲気や、バラ祭り後の民族衣装で身を包み、伝統楽器を奏でるパレードを楽しみました。

ストラザゴラ 6月7、8日 Ms. LG 9日 Tさんの両親宅

ストラザゴラの有名な博物館が休館だったので、Lさんがバラ祭りでも有名なカザンラクを案内して下さいました。バラ祭りは済んでいましたが、花々で飾られた通り、個性的な喫茶店やショップ、薔薇にふさわしい綺麗な町でした。Lさんはブルガリアサーバスの会長でもあられたのですが、今は1人娘をパリの大学へ留学させた時のローンを払うために収入の多くを使われており、サーバス旅行なんてとてもとてもと言われていました。



Tさんのご両親の家はストラザゴラから車で30分位の所にあり、山郷の全く平和な田舎です。どの家も野菜畑、果樹の木があり、鶏も飼っていて、山には湧水があって、汲みに行っています。村の人は公民館に集まって、歌や踊りを楽しんでいます。お母さんが村に日本からお客さんが来ると言われていたので、村を歩いていると、あちらこちらの家からお呼びがかかり、お茶を御馳走になり、楽しい訪問でした。

ネセバル 6月10.11日 ホテル

ネセバルは黒海に突き出した半島の港町で、紀元前2000年頃から人が住み、交易の諸点でした。町全体が世界遺産に登録されていて、今は観光地として賑わっています。私たちも観光と水泳を楽しみました。ここで大失敗。私たちは海沿いのキッチン付きのホテルに泊まりました。テラスもあるので、海に沈む夕日を見ながら食事をしようと、料理をして、テラスに運びました。ワインを取りに行くと、全ての食事が無い！！ 何と鳥が飛んできてさらってしまったのです。あ～あ、残念！！

ヴァルナ 6月12, 13日 TBさんの別荘

黒海に面したヴァルナは夏の首都と言われていて、夏にはバカンスを楽しむために、ブルガリアのみならず、周辺国からも多くの人々が来て、滞在を楽しみます。Tさんの別荘からは雄大な海が眺められ、テラスでの食事は楽しいものでした。海沿いにはプールも完備したホテルがあり、黒海やプールによく出かけました。又、北へ50Km位行ったバルチクには、ルーマニア統治時代の王妃の夏の離宮があり、それを囲んで植物園が作られています。優美な建物、色とりどりの花、目の前に広がる海、抜けるような青空の元の豊かな空間でした。

ルーセ 6月14, 15日 Mr. & Mrs. P P

ルーセはドナウ川を挟んでルーマニアと国境を接する街です。ホストのPさんは実業家で3人の娘さんがいます。奥さんはとてもお料理が上手。奥さんと娘さんで郷土色豊かな踊りを踊って下さり、ブルガリアでは昔から伝わる歌や踊りが生活に溶け込んでいました。1日1往復しかバスが出ていない郊外の中世の町、ツェルバンに行きました。山の上にある城跡が見ものです。幸いバスで城跡の事務所に勤めている人と知り合せて、簡単に現地に行けました。山上の城跡自身も素敵でしたが、山上からははるかかなたまで見渡せ、多くの戦いが繰り広げられたろうと、歴史に思いを馳せました。昼食は鶏の手羽先のバーベキュー、メニューは簡単ながら、地を這う鶏の何と美味しい事! ビール片手に大満足。昼からもう1度城跡に登りました。2度登った人は初めてだと言われました。



ヴェリコタルノヴォ 16日 ホテル

森、丘、川、切り立った磐の美しい自然とブルガリア帝国時代の城壁や遺跡が融和している素敵な所でした。

ソフィア 17日 Mr. & Ms. T B

ギリシャ テッサロニキ 18~20日 Mr. & Ms. D P B



ホストは牛の牧場の持ち主で、テッサロニキの郊外10Km位の所に住んでいられるのですが、テッサロニキの町を案内して下さったり、いつもテッサロニキのバス停まで送り迎えをして下さいました。

ギリシャ第2の都市、テッサロニキで、まず目に飛び込んだのは、地中海の紺碧の海です。次いで道に溢れんばかりの多くの人々、渋滞の車です。それから恐ろしい事が! 誰かが私の鞆に手を入れたのです。全てが「ギリシャに来た!」という感じでした。

古代からギリシャの都市は城壁によって守られてきたのですが、ここにも城壁が残っています。又、荘厳な教会等3つの世界遺産があり、重々しく素敵でした。広場の名前もアリストテレス広場と歴史を感じる所でした。郊外にベラという昔の首都を訪ねました。発掘された建物の床は素晴らしいモザイクでした。

ソフィア 21, 22日 Mr. & Mrs. G S

旅の全てに有難う! 終わり

3、トラベラー受入れ報告

アウトドア派のトラベラー

1月28, 29日オーストラリアから Ms, S と Mr, P のペアがこられました。どうしてこんなに寒い冬に? と思ったら、長野でスキーにグループ参加で来られていて、一ヶ月近くを日本で過ごし、その合間に関西に立ち寄られたようです。スキーだけでなく、サイクリングやハイキングなどアウトドアのスポーツに外国まで出かけて楽しんでおられるようでした。長野では安い宿舎を合同で借りていて、日本旅行が済んだらカナダにも行かれるようでした。

交野市 S.S



公務員関係で水に関した化学関係のお仕事を25年しておられて、退職後は人生を楽しんでおられるようでした。二人はそれぞれ子どもがいて合わせて、7人の子どもはアメリカ、インドネシア、カナダ、オーストラリアなどに住んでいます。子どもの家や旅行クラブの旅行を交えて長期滞在を楽しんだりもしておられました。

29日の夜は近くに住むいとこ夫婦が肉ジャガを持って来てくれました。生魚も食べられるということで、手巻きも用意したのですが、やはり肉ジャガに手が伸びていました。奈良や京都を楽しまれたあと、広島へ発たれました。

ゲストを迎える度に、外国の旅行者は人生を楽しむ術を身につけておられるのに感心します。私は結構、自分の人生を楽しんできましたが、人生を楽しむためのパートナー探しの努力は足りへんかったとこの二人をみて思いました。

ようこそ秋の日本へ

和泉市 A.K

11/5-13 T & M



ドイツから若い二人が来てくれました。とてもアニメに興味を持っていました。ちょっと、着付けもしました。デザートにバームクーヘンを出したところ、ドイツではクリスマス限定なんだそうです。どこでも売っているものではないそうです。一度ドイツのクリスマスマーケットに行ってみたいです。大変にぎわっているようです。お友達も呼んで、楽しく夕食を食べました。

11/10-11 Ms. H Mongolia

5月に来られた時の写真・ビデオを見せてもらった。C君の成長はとても楽しみにしています。モンゴルと日本をつなぐ交流ができればいいなと思いました。また、モンゴルの様子を聞かせてもらい、そして、ゆっくり来てもらうことを約束しました。



9/2-4 Ms. A Mr. J 息子 Irelando



ボーイスカウト国際ジャンボリーが、44年ぶりに山口県で行われ、息子を持ってスティしたいとメールを受けました。帰国前日だったため、のんびりと大阪観光を計画していました。スパワールドでは、温泉三昧だったようです。また、キッズプラザでは、体験型施設だったので、アフレコをしたり、ワールドニュースのキャスターをしたりしていました。とても陽気な親子でした。

ロンドンからのお客様

奈良市 K.J

11月11日JR奈良駅でロンドンから来たB & A H夫妻と待ち合わせした。Nice to meet youの挨拶の後すぐに近鉄奈良駅までバスで向かってここで荷物を置く。だが今は中国人観光客の増大で駅のコインロッカーは満杯。すかさず自転車置き場で荷物を預かってくれる所へ持って行く。いつもならここから東大寺へ行くのだが、その日は少しコースを変えてならまちへ。昼ごはんの予約より少し早く着いたため、春鹿の酒造会社で5種類の日本酒の試飲を。慎重にBは味わっていたが純米大吟醸が一番おいしかったとの事で、早速それを購入。其の後隣の今西家書院でお食事。ここは古い屋敷で武家方がいらっしやった所で、秋篠宮ご夫妻もお越しになった所。いつもならビジターに負担をかけさせないため昼食は1500円以内と決めているが、この日は少し高く入館料込みで2700円。お料理は順に出てく

る懐石だがここで私のミス。A はベジタリアンでそれをメールに書いていたのだが、私が読み落としたのだった。お料理は見た目は精進料理っぽいが、だしが鰹を使ってあったりつくねが入っていたりとかで、A は半分ほどしか食べられず、皆B が代わりに食べてくれた。それでこのA の分は私が支払うことにした。いつもは外食は割り勘にしている。其の後東大寺へタクシーで。というのも東大寺は16時で入館出来ない事になっているからだ。彼らはあの大仏とたくさんの鹿に大満足。仏像の見方を説明したら少しずつわかるようになった。其の後学園前にある西部公民館という所で英語クラブへ。これはNPO法人EU協会が主催していて毎月一度英語をしゃべる人を呼んで彼らの国やライフについて語ってもらうというもの。出席者は皆日本人だが英語は達者で、B & A 夫妻は熱心にイングランドについて語ってくれた。B がアイルランド出身だったので皆イングランドとアイルランドの関係に興味津々。質問が飛び交った。それが済んだら東京へ単身赴任している主人が車で迎えに来てくれて一路我が家へ。始め夕食はボンゴレスパゲッティにするつもりだったが、A がベジタリアンなので急遽なすとトマトのスパゲッティに変更。後ポタージュスープと野菜サラダの簡単な料理に日本酒、ワイン、ビールを入り混じりに4人で飲みその日は終了。次の日は朝早く起きて談山神社へ紅葉を見に。しかし何と季節が早すぎて紅葉はさっぱり。I am sorry という私にDon't mind で笑ってくれた。朝早く出たため奈良に早く帰れたので春日大社へ。ついでに若宮神社なども巡った。こういう小さな社がたくさんある所が私は好きなのだが、外国人にとってはどうなんだろう？ 散歩の途中で志賀直哉邸の近くにある私の知人が経営しているカフェ「たかばたけサロン」で一息。そしてその夜は外食。又々ならまちの一日二組しか取らないという家族経営のお店「うとうと」へ。ここは本当に儲けを度外視して趣味でやっている。値段は2000円。お酒の持ち込みOK。お料理は手作りの家庭料理を次から次へと運んでくれる。ベジタリアン用に野菜だけで料理してもらった。ワインを買っていくのを忘れてたら、近くの店で買ってきてそのままの値段にしてくれる。もう満腹で最後の炊き込みご飯は入らなかった、最後は薄茶の御手前で。其の後の後が面白い。お店のオーナーが何でも鸚鵡返しにしゃべる人形を披露してくれると彼らは大喜び。英語を言うとすっかり英語その通りで返ってくる。これに3人で大笑い。B はこれが欲しいと言い出してオーナーのを譲ってもらって買った。所がもう一つ人にあげるのに欲しいと言うので、12月にこの人形が入るので後で送ってあげると約束。2人は次の日広島へ旅立って行った。奈良は満足してくれただろうか？

4、会員交流—北から南から—

土と戯れる日々

生駒市 T.S

私がこの西畑の棚田の一角で農業の真似事を始めたのは昭和62年の夏でした。未だ住いは大阪の吹田市千里丘にあった頃です。近じか生駒に帰ることになっていましたので、どこか自然に囲まれた素朴で静かな農地を求めて、生駒山の暗峠付近に広がる西畑を訪れた時、幸運にもこの村にお住いで地主のNさんにめぐり合いました。Nさんはもう80才を過ぎたかと思われるどこか村長を思わせるような気骨のある方で、私の野菜造りの夢と情熱に耳を傾けて頂きました。私の話を聞き終わるやいなや、即座に「よっしゃ！わかった！」とその足でお貸し頂く土地をご案内して下さいました。全く不思議な出会いです。「ここはどうや」とおっしゃって頂いた時は、夢ではないのかと思うほど嬉しかったことを思い出します。「ここで念願の土と戯れることが出来るのか」と、自分の心に描いた夢が実現となり、思わず「あ



あ

りがとうございます。これから末永く宜しくお願い致します」と言って感謝感激したことを今も決して忘れません。

爾来 20 年以上がたちました。この出来事が私が生駒に帰ってきて新たに生駒に根を下ろし生駒で生活を始めた礎となったことは間違いありません。吹田の千里山にいた頃から、茨木高原近くの泉原で農地を借りて、4 年ほど野菜造りをしていました。そんな訳で農作業について有る程度のことは学んで知っていましたので、心配はありませんでした。ですから経験を生かしてここではすぐに畝立てから始めました。しばらく休耕地であったらしく、雑草で土は固くなっていましたが、まだ元気のある頃でしたので、直ぐに 12~3メートルの畝を立てて、先ず大根を播きました。もちろん仕事は現役でしたし、最初は住いが吹田でしたので、1 年目は管理もろくに出来ずにお爺さんに笑われ、2 年目の夏には生駒に引っ越して来ましたので、休日毎に畑に通うようになりました。その頃には長い畝が 4 本、短い畝を 5 本も造っていました。お爺さんやお婆さんから、作物の作り方に関して、いろんな事も教わりました。作物の植える間隔、種を播く時期などなどです。作物造りの作業段取りはその土地土地で違います。またその土地にあった作物を作ることも大事なことです。冬の間遣っておかなければならない作業も沢山あります。気候は毎年違います。その年の気象を肌で感じて種の播き時を決めたりも致します。少しでも経験のある方のご存知でしょうが、農作業はまったく大変です。夏は草との戦いです。私は自然農法を心がけていますので、畑に水は遣りませんが、その分工夫も致します。たとえば、余り水分を必要としないもの植えてみたり、また、比較的水の好きな作物の根元には、どんどん刈った草で敷き藁をして水分の蒸発を防いだり、畝間にも摘み取った草を重ねて畑全体の水分の蒸発を防いだりしています。それだけやっても、まぐれを除けば、なかなか満足いく収穫はありません。

でも楽しい！本当に農作業は楽しいのです

芥子粒ほどの小さな種から根を出し、芽が伸びて土と雨と太陽の光を浴びてどんどん葉を作ります。そして花が咲き、栄養分の詰まった実をつける、生命の力を感じます。私の自称自然農法は、草を刈り堆肥としてその草を畝に漉き込むといった簡単なものです。一度根付くと決して水を遣らないこと、水分は自然の雨と夜露だけに頼ります。ややもすれば荒地農法みたいになりますが、これは草刈や手入れ



が間に合わない夏場によくあることです。でも秋野菜の播種期までには、毎年何とか耕して種だけは播きます。そんなサイクルですから、休む暇などありません。私のように小さな耕作地でも結構大変ですが、本職の農家の方はきつともっともっと大変なことでしょう。

私は日々土に戯れることが出来てとても幸せです。

畑は夏場が大変です。畑地の乾燥と雑草のはびこりが半端ではないのです。草むらで成長するヤーコン、知らない方は畑にキュウリや茄子が自然に任せてどんどん出来ると思っておられるでしょうが、どっこいそうは簡単に行きませんよ。キュウリや南瓜は、植え付けと同時にどこから飛んでくるのか、小さい時にウリハ虫にやられます。かろうじてやると実がなると、今度はカラスにやられます。雨が降らないと下から葉っぱが枯れてきて、実は曲がった小さなひょうたんのようになり、味も落ちます。トマトはへたから腐る病気でさっぱりです。実が付き赤くなって食べ頃になると、へたから腐ってくるのです。特に今年の日照りは散散でした。20 本以上植え付けたパプリカピーマンはちっとも実が成らず、葉っぱが伸びる大事な新芽はカメムシの集団に水分を吸い取られ、ほとんど瀕死の状態でした。周りの草との成長競争に敗れた人参は、草の中で惨めです。それに厳しい残暑が続くと、秋野菜がなかなか播けません。それでも暑い中、種まきの準備はやっぱりしておかねば

なりません。畑に生い茂った草を取り、土を起こして畝を立て、天からの雨を待ちます。農業の真似事でもこんなに雨が何時降るかが心配ですから、本職の方はもっともっと大変なのに違いありません。やっと播いた種が無事芽が出て成長が始まりますと、今度は虫がやってくるのです。農薬は絶対遣いませので、虫は全部手で捕ります。相手は空から飛んできて、好きなところに卵を産み付けます。悔しいことに、虫の成長は野菜の成長より早いのです。しかも、一番美味しい大事なところを食べるのでからいけません。誰かが言ってましたが、虫に向かって、「あんたは葉っぱを食べたんだから葉っぱの養分となって土にお帰り」といって土の中に埋め殺すのだそうです。私は指で押さえて圧死の刑を授けます。それも憎しみを込めて！

まあ野菜造りの話はずきませんが、何時かゆっくり苦勞話をいたしましょう。私の自然農園は、野菜も沢山作りますが、花も沢山咲きます。花作りも野菜に劣らず楽しいものです。一度植えると毎年楽しめるものを沢山植えています。

こちらもよければ見学にお越し下さい 運がよければ野菜のお土産もつきますよ！！

私がこのように土に戯れることができるのは、地主さんである N さんのお蔭です。N さんありがとうございます。感謝、感謝、いつも感謝を忘れません。

5、お知らせとお願い

支部長

*2016年3月12,13日に北海道で開催される日本サーバス国内会議にご参加下さい。参加される方は支部長までご連絡下さい。

* 次の例会は2016年2月20日(土)、お昼を挟んで大阪府茨木市のかごの屋で行います。詳しいご案内は後ほどしますので、よろしくご予定下さい。

*2016年度サーバス年会費(一般3000円学生2000円休会者B1500円)を次の口座へ宜しくお願いします。口座番号00990-6-33645 加入者名 日本サーバス近畿支部

以上